



博物館の窓

第78回

学芸員

持田

誠

北海道最古級のガラス玉



常設展示室の「続縄文文化と墓」コーナーに、十勝太若月遺跡から出土した十個のガラス玉が、糸で連なって展示されています。続縄文時代は、紀元前三百年ころから紀元後の7世紀ころまでの時代で、本州では弥生時代から古墳時代にかけての時期に相当します。

続縄文時代の後期にあたる3〜4世紀の遺跡である十勝太若月遺跡からは、たくさんの大きな墓の跡がみつかっています。お墓の副葬品として、石器のほかにかこうしたガラス玉も出土しており、ヒスイや碧玉（へきぎよく）製の管玉（くだたま）が副葬品の中心だった時代からの変化を感じさせます。

ここうしたガラスは、南アジアや東南アジア由来とされています。十勝太若月遺跡のガラス玉は、北海道でも最古級のガラスと考えられており、その貴重性から、2021年には国立アイヌ民族博物館の企画展にも貸し出されました。

北海道最古級とされるガラス玉。3-4世紀の続縄文時代後期のもので、南アジア産ではないかと考えられている。水色や紺色の美しいガラス玉が10個連なっている。（浦幌町立博物館所蔵）